Panasonic®

保管用

取扱説明書

ファクトライン200
工場用配線ダクト

■ご使用前にこの取扱説明書を必ずお読みのうえ、正しくお使いください。
■本商品のトラブル処理・増設などのメンテナンス作業は電気工事業者に依頼してください。
なお、その際には必ず本取扱・施工説明書をお渡しください。
■この取扱説明書は必ず保管してください。

●ターミナルプラグの増設の際には、結線作業が必要なため、電気工事士の資格が必要です。
●ファクトライン200から30への分岐接続のように、分岐回路として使用するターミナルプラグの着脱・移設には電気工事士の資格が必要です。
●分岐回路ではなく、直接負荷機器を接続して使用するターミナルプラグの着脱・移設は電気工事士の資格がなくても行えます。

(ご注意) プラグ類の着脱・移設・増設の際には、必ず電源を切ってから行ってください。

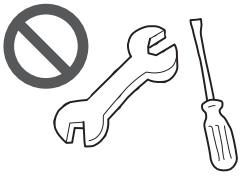
安全上のご注意(必ずお守りください)

人への危害、財産の損害を防止するため、必ずお守りいただくことを説明しています。

⚠警 告

禁 止

●商品の改造は絶対にしない
感電・火災・落下のおそれがあります。



●ファクトライン200の本体に専用器具以外を取り付けたり、専用器具以上の重量(ハンガー吊り下げ許容荷重20 kg)をかけない
落下のおそれがあります。

必ず守る

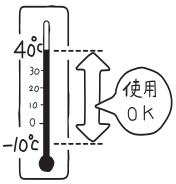
●異常が生じたら速やかに電源を切り、電気工事業者に連絡をして処置を依頼する
守らないと、感電・火災・落下のおそれがあります。なおその際には必ず本取扱・施工説明書をお渡しください。
●商品の取り替えには、電気工事士の資格を必要とする
●プラグは許容荷重以下で使用する
守らないと、落下のおそれがあります。

⚠注 意

禁 止

●一般屋内専用のため湿気の多い場所・振動のある場所・雨の吹き込みを受ける場所・水気のある場所・腐食性ガスの発生する場所、油煙の上がる場所・切削油などが直接かかる場所などでは使用しない
感電・火災・落下のおそれがあります。

●周囲温度が、−10 ℃〜40 ℃の範囲外や急激な温度変化で結露が生じるおそれのある場所などでは、使用しない
感電・火災・落下のおそれがあります。

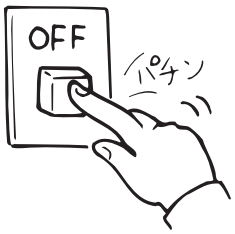


●ファクトライン200のプラグ類は、アースの取り方や寸法が異なるため、ファクトライン400・100・60・30・20には使用しない
感電・火災のおそれがあります。

●プラグの電線を引っ張らない
●プラグの逆向き接続はしない
接続不良により、火災のおそれがあります。

必ず守る

●点検の際には必ず電源を切ってから行う
守らないと、感電のおそれがあります。



●地震の発生後は、電源を切り、取り付け強度が十分あるか調査し、異常がある場合は電気工事業者に相談する
守らないと、落下のおそれがあります。
なお、その際には必ず本取扱・施工説明書をお渡しください。

パナソニック株式会社　パワー機器ビジネスユニット
〒571-8686 大阪府門真市大字門真1048番地　TEL.(06)6908-1131〈代表〉
© Panasonic Corporation 2013
DH2511−T13
DC0509−30813

Panasonic®

施工説明書

ファクトライン200
工場用配線ダクト

■施工前にこの施工説明書を必ずお読みのうえ、正しく施工してください。
■この商品の施工には電気工事士の資格が必要です。施工は必ず工事店に依頼してください。

安全上のご注意（必ずお守りください）

人への危害、財産の損害を防止するため、必ずお守りいただくことを説明しています。

⚠警 告

禁 止

- ●商品の改造は絶対にしない
  感電･火災･落下のおそれがあります。
- ●燃料性ガスの雰囲気では使用しない
  爆発のおそれがあります。
- ●周囲温度が、−10 ℃〜40 ℃の範囲外や急激な温度変化で結露が生じるおそれのある場所などでは使用しない
  感電･火災のおそれがあります。

必ず守る

- ●この商品は、電気設備技術基準（法令）および内線規程に従い施工する。電源の一次側には適正な過電流遮断器を使用する。ファクトラインへ供給する電線は、分岐回路を保護する過電流遮断器・定格電流に適したサイズのものを選定する。詳細は内線規程を参照する
  火災･感電･落下のおそれがあります。
- ●施工は、取付方法に従い確実に行う
  施工に不備があると感電･火災･落下のおそれがあります。
- ●施工の際は、必ず電源を切ってから行う
  感電のおそれがあります。

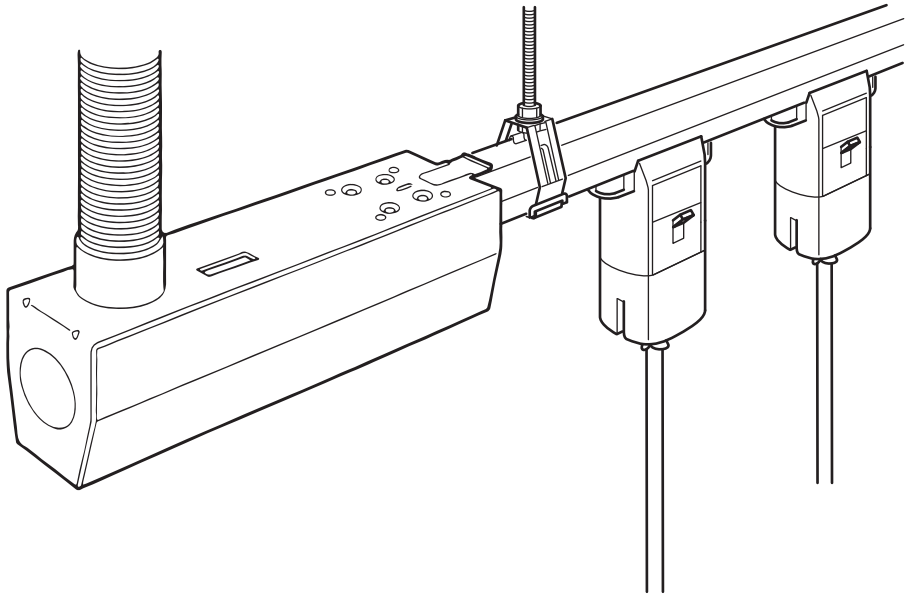
⚠注 意

禁 止

- ●一般屋内専用のため湿気の多い場所・振動のある場所・雨の吹き込みを受ける場所・水気のある場所、腐食性ガスの発生する場所、油煙の上がる場所・切削油などが直接かかる場所などでは使用しない
  感電・火災・落下のおそれがあります。
- ●本体は造営材を貫通して施設しない
  火災のおそれがあります。
- ●プラグの逆向き接続はしない
  接続不良により、火災のおそれがあります。
- ●ファクトライン 200 本体は両端末に特殊加工を施していますので、切断加工はしない

必ず守る

- ●表示の定格、負荷容量の範囲内で使用する
  範囲を超える使用は、やけどや火災のおそれがあります。
- ●本体の開口部は、下に向けて施設する
  接続不良により、火災のおそれがあります。
- ●本体の取り付け方向はプラグの向きを決めてから施工する



ファクトライン 200 の安全チェックシート&メンテナンス表

●１年に１回以上は安全チェックシートに基づき自主点検してください。異常があれば速やかに電気工事士に処置を依頼してください。
●竣工時とその後３年に１回以上は電気工事士による点検をお受けください。
●設置から１０年後以降もお使いになる場合は、最低でも１年に１回以上は必ず電気工事士による点検をお受けください。
　また設置から１５年後以降は使用を速やかに中止し、交換してください。

件　名		点検日	年　月　日	点検者	

⚠ 注意

必ず守る

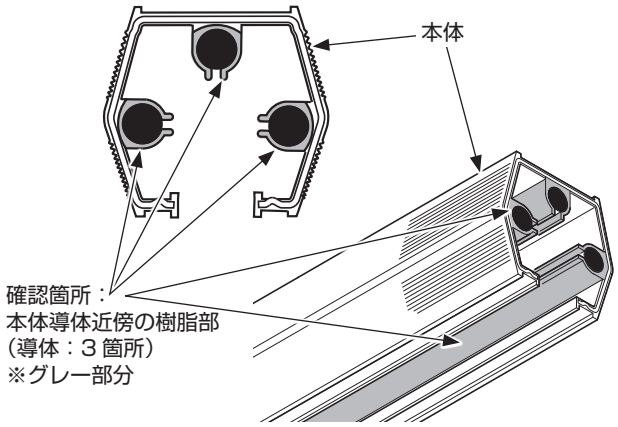
●異常時の処置・対策は必ず電源を切り、電気工事士がおこなう
守らないと感電・火災・落下の原因となります。

点検結果		処置	
	○：異常なし		○：要交換
	×：異常あり		●：交換済
			△：要調整
			▲：調整済

■安全チェックシート（自主点検）：１年に１回以上

		点検項目	点検結果
使用期間	1	使用期間が１０年以上でないか	
		使用期間が１５年以上でないか	
使用状況	1	ファクトライン 200 に結露が発生していないか	
	2	ファクトライン 200 本体の内部に変色やこげが発生していないか	
	3	ファクトライン 200 本体の内部にほこりの付着・堆積などがないか	
	4	ファクトライン 200 本体と接続部品に異常なゆるみ、すき間がないか	
	5	ファクトライン 200 本体の接続が一直線になっているか	
	6	異臭または焦げたようなにおいがしないか	
使用状況	7	漏電ブレーカが動作することがないか	
	8	取り付けられている機器の電気が入ったり、切れたりすることがないか	

２．変色確認箇所



■メンテナンス表（電気工事士による点検内容）：竣工時とその後３年に１回以上

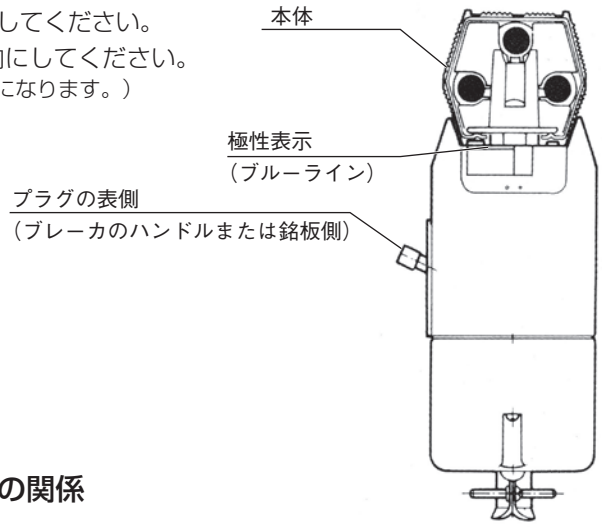
名称	点検内容	異常時の処置・対策	結果	処置
本体	結露が発生していないか	結露の原因を取り除く		
	本体内部の樹脂に著しい変色やこげが発生していないか	製品を交換する		
	本体内部にほこりの付着・堆積がないか	ほこりを取り除く		
	本体の接続が一直線になっているか	一直線となるよう取り付けを見直す		
	本体に専用のプラグ以外が取り付けられていないか	プラグを交換する		
接続部品 ・フィードインキャップ ・センターフィードインジョイナ ・ジョイナ ・エンドキャップ	セットねじの緩みはないか	増し締めする		
	本体への差し込みが不足していないか	奥まで十分差し込む		
	カバーのはずれがないか	カバーを取り付ける		
	樹脂の著しい変色・変形がないか	製品を交換する		
	破損やクラックがないか	製品を交換する		
	端子ねじの緩みがないか	増し締めする		
プラグ	本体への取り付け方向性があっているか	向きを確認して取り付ける		
	端子ねじの緩みがないか	増し締めする		
	樹脂の著しい変色・変形がないか	製品を交換する		
	破損やクラックがないか	製品を交換する		
	プラグの電線が引っ張られていないか	電線に余長をとる		
ハンガー	本体リブ部がフック部に引っかかっているか	本体リブ部をフック部に引っ掛ける		
全体	絶縁抵抗 対地電圧 150 V 以下：0.1 M Ω以上か 対地電圧 150 V 以上：0.2 M Ω以上か	異常箇所の特定と原因に応じた対策をおこなう		

ファクトライン200施工方法

施工上のご注意

1 本体の取付方向とプラグの向きの関係

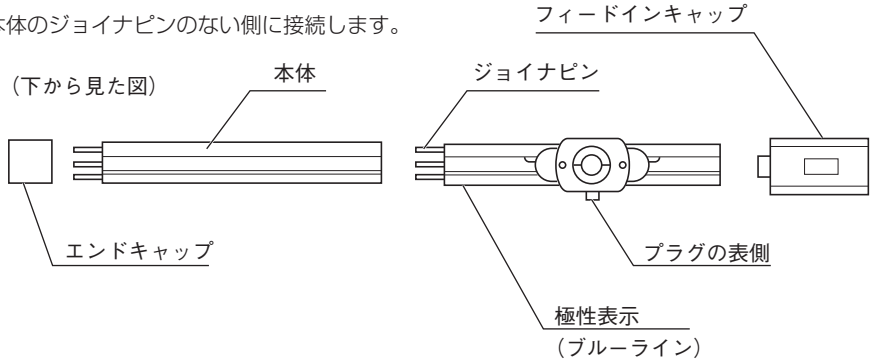
1.本体の取付方向はプラグの向きを決めてから施工してください。
2.本体はプラグの表側と本体の極性表示を同一方向にしてください。
（フィードインキャップはプラグの表側から見て、左側になります。）



2 給電位置（フィードイン）とプラグの向きの関係

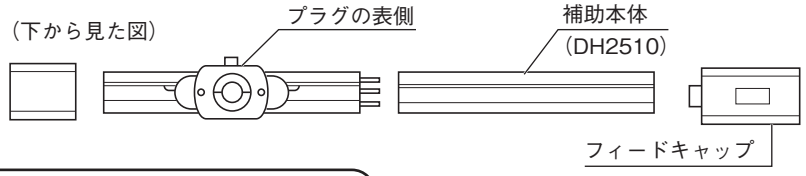
標準施工

フィードインキャップは本体のジョイナピンのない側に接続します。



フィードインキャップを本体のジョイナピン側に接続する場合

ファクトライン200用補助本体（DH2510）をご使用ください。

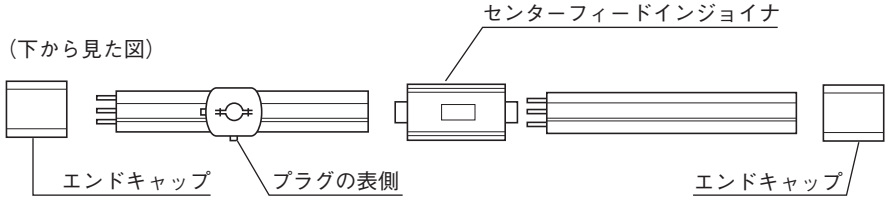


ご注意

●ファクトライン200は本体両端末に特殊加工を施していますので、
切断加工しないでください。

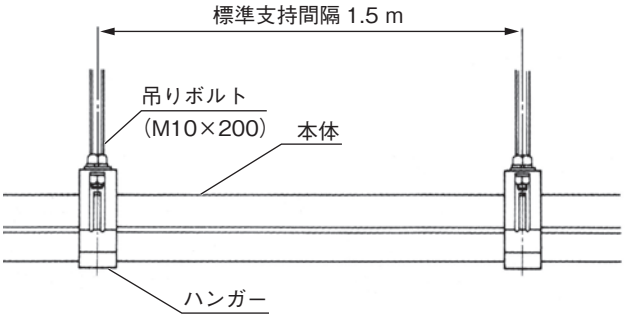
給電位置が中央の場合

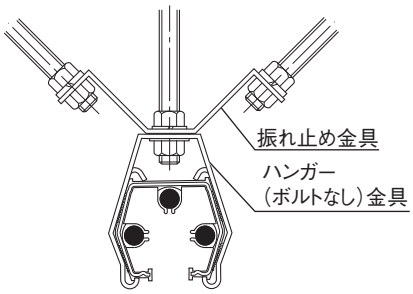
センターフィードインジョイナは本体の両端に接続できます。



1 ハンガーの取り付け

1.ハンガーの取付ピッチは標準1.5 mにする。
2.吊りボルトは造営材に確実に固定する。



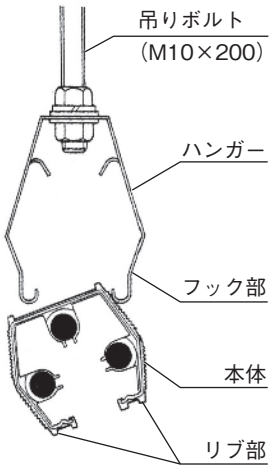


⚠注 意

●長い吊りボルトを使用する場合は、振れ止め金具DL741Yにて振れ止めする
●本体が蛇行しないよう、ハンガーのセンターをそろえる
落下のおそれがあります。

本体の取り付け

1.本体上面の角部でハンガーフック部を押し開ける。
2.そのまま本体を押し上げてリブ部をフック部に引っかける。
（ハンガー<ボルトなし>を用いる場合も同様にして取り付けられます。）

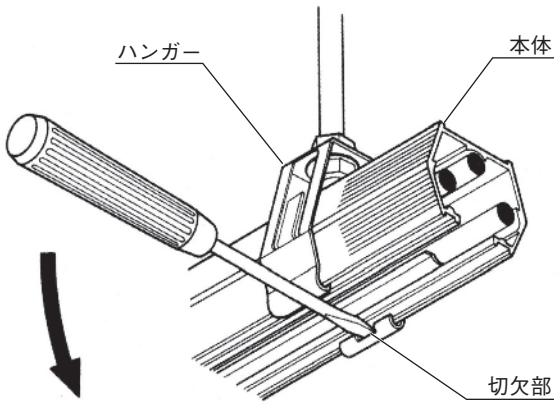


⚠注 意

●ハンガーを取り付けるときは、確実に取り付ける
落下のおそれがあります。

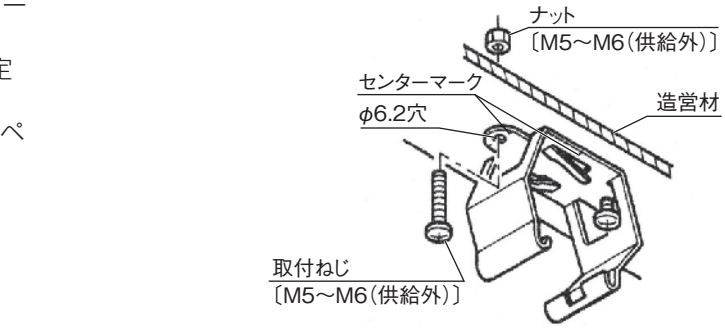
本体の取り外し

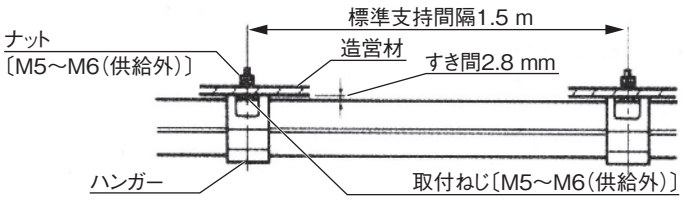
1.ハンガーの切欠部に⊖ドライバーを挿入して矢印の方向に引き下げ、ハンガーフック部を本体のリブから外す。
2.本体を下方向へ取り外す。



2 直付ハンガーの取り付け

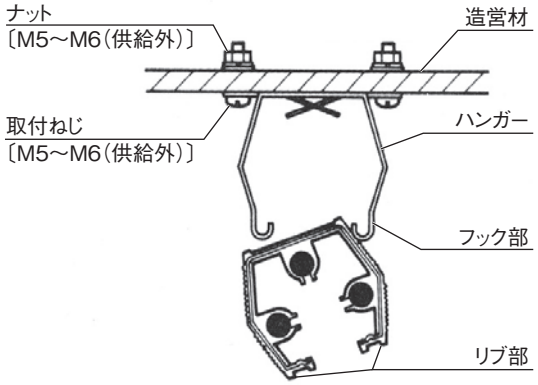
1.ハンガーの取付ピッチは標準1.5 mにしてください。
2.ハンガーの取付位置は、ハンガーに刻印したセンターマークに合わせてセットしてください。
3.取付ねじはM5～M6を使用し、造営材に確実に固定してください。
4.ハンガーの取付面の高さレベルがでていない時はスペーサなど（供給外）で調整してください。





本体の取り付け

1.本体上面の角部でハンガーの片側のフック部を押し開ける。
2.本体を押し上げて片側のリブ部に引っかけて本体相互の位置を合わせる。
3.本体相互を接続した後、さらに本体を押し上げて、もう片側のフック部を本体のリブ部に引っ掛ける。

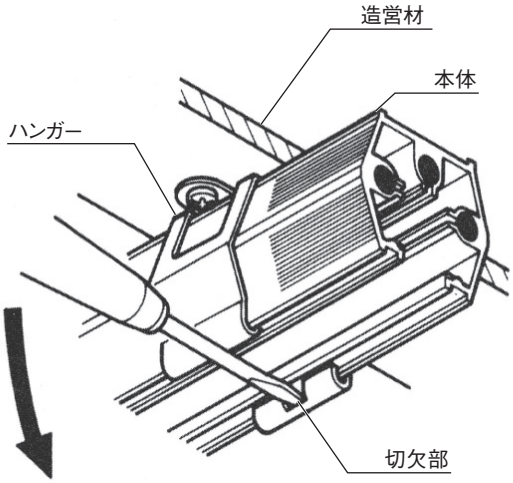


⚠注 意

●ハンガーを取り付けるときは、確実に取り付ける
落下のおそれがあります。

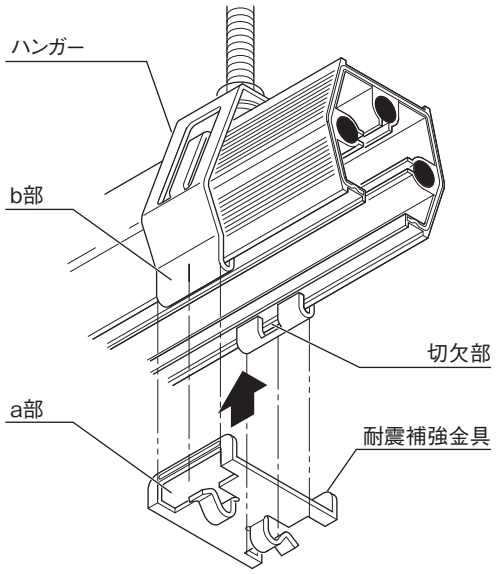
本体の取り外し

1.ハンガーの切欠部に⊖ドライバーを挿入して矢印の方向に引き下げ、ハンガーフック部を本体のリブから外す。
2.本体を下方向へ取り外す。



3 耐震補強金具の取り付け

●耐震補強金具とハンガーの中心を合わせ、耐震補強金具のa部にハンガーのb部をはめ込む。

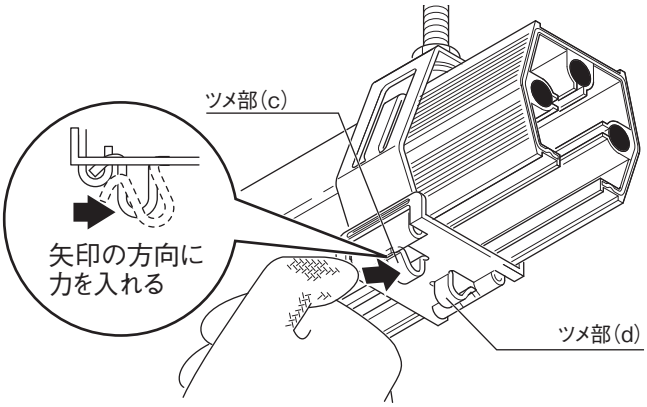


耐震補強金具の取り付け

1.どちらか片方のツメ部(c)を ➡ の方向に力を入れ、ハンガーの切欠部へパチンと音がするまで親指などで押し込む。
2.次にもう一方のツメ部(d)をハンガーの切欠部へ同様に押し込む。

ご注意

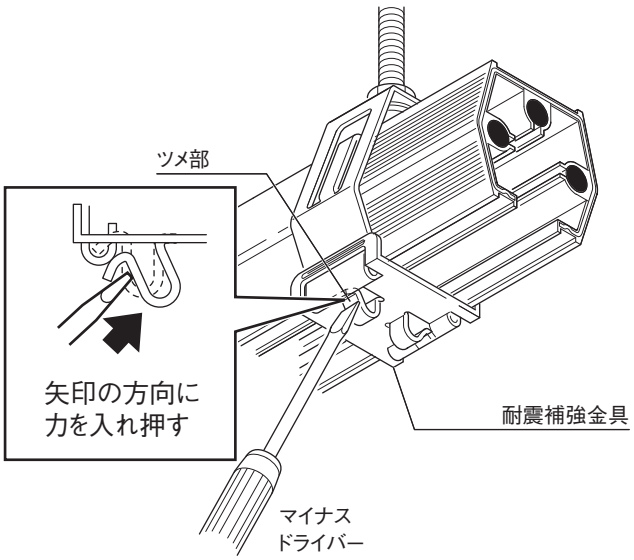
●耐震補強金具がハンガーと嵌合していない時は、ファクトライン本体またはハンガーが、変形・破損している可能性があります。確認のうえ交換してください。
●ファクトライン30用とは取付方法が異なりますのでご注意ください。



※「手袋」をはめた親指などで押し込む

耐震補強金具の取り外し

1.右図のように耐震補強金具のツメ部と、ハンガー下部のすき間に⊖ドライバーを挿入する。
2.矢印の方向にドライバーを動かして外す。

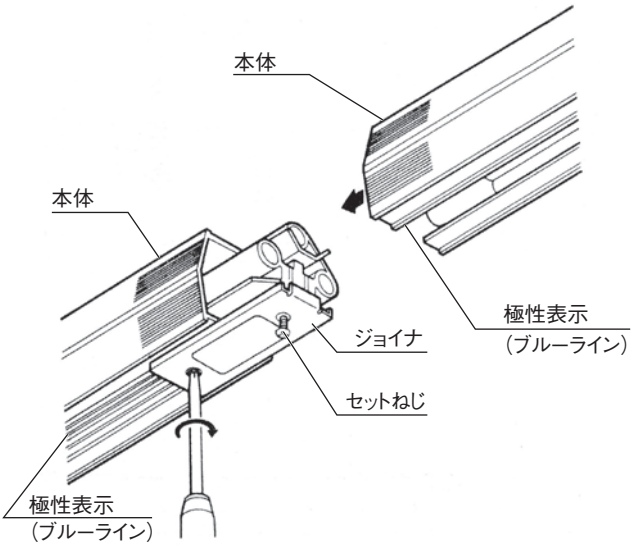


ご注意

●取り外しを行なうツメ部は2個所あります。
●取り外しは、片方ずつ行なってください。
●取り外した耐震補強金具は再度使用しないでください。

4 本体の接続

1.ジョイナのセットねじをゆるめて本体に差し込む。
2.本体のジョイナピンを確実に接続する。
3.ジョイナのセットねじを確実に締めつける。



ご注意

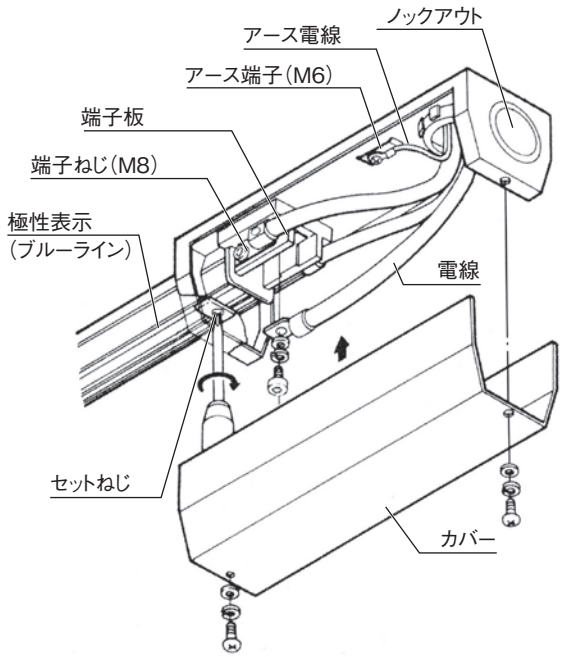
●本体相互の接続にはジョイナを使用してください。

⚠注 意

●本体は、突き合わせて確実に接続する
接続不良おそれがあります。
●セットねじは確実に締め付ける
感電・火災のおそれがあります。

5 フィードインキャップの取り付け

1.本体にフィードインキャップを差し込み、セットねじを締めて固定してください。
2.フィードインキャップの端部または上部のノックアウトを打ち抜き、電線管を取り付け、電線を引き出してください。
3.電線を配線のしやすい長さに切断して、圧着端子を圧着してください。
4.電線を圧着端子で端子板に接続してください。結線後、相識別ラベルを端子ねじ近くに貼り付けてください。
5.アース電線を圧着端子でアース端子に接続してください。

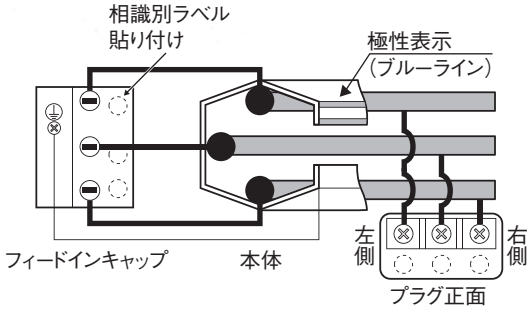


ご注意

●電線は100 mm²をご使用ください。
●本体(導体)と端子の関係は右図の通りです。ただし補助本体(DH2510)を使用して、極性を変える場合はフィードインの端子番号は逆になりますのでご注意ください。

⚠注 意

●セットねじおよび端子ねじは確実に締め付ける
感電・火災のおそれがあります。

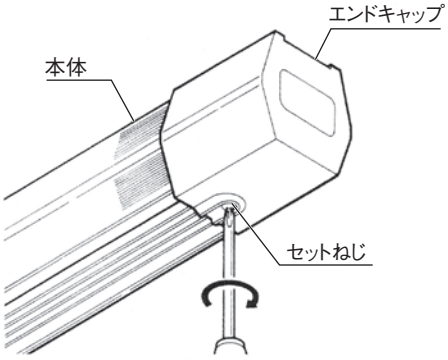


6 エンドキャップの取り付け

1.ジョイナピン保護キャップを取り除き、本体の終端部にエンドキャップを差し込む。
2.セットねじを締めて固定する。
- エンドキャップはジョイナピンのある側、ない側のいずれにも取り付けられます。

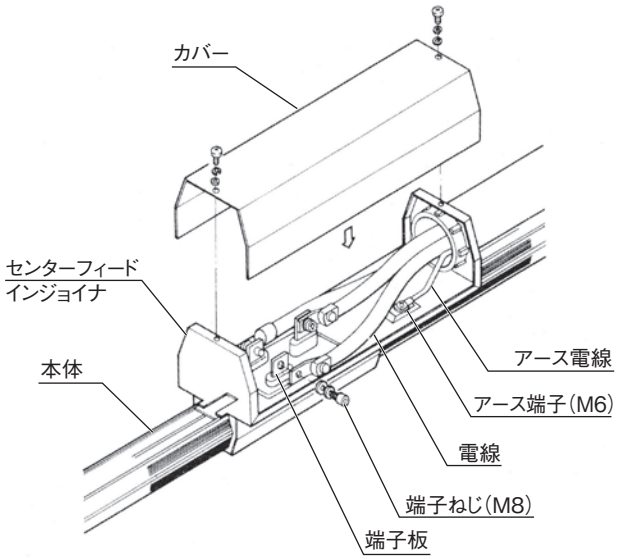
⚠注 意

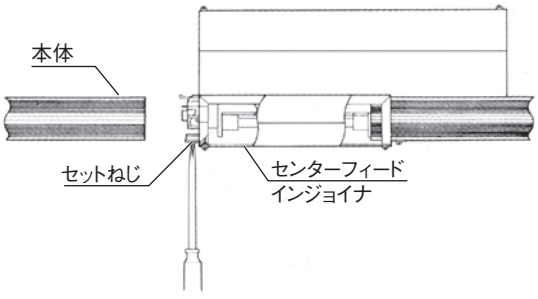
●終端部には必ずエンドキャップを取り付ける
●セットねじは確実に締め付ける
感電・火災のおそれがあります。



7 センターフィードインジョイナの取り付け

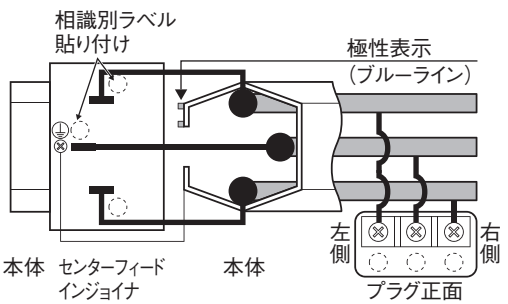
1.本体にはセンターフィードインジョイナを差し込み、セットねじを締めて固定してください。
2.ノックアウトを打ち抜き電線管を取り付け、電線を引き出してください。
3.電線を配線のしやすい長さに切断して、圧着端子を圧着してください。
4.電線を圧着端子で端子板に接続してください。結線後、相識別ラベルを端子ねじ近くに貼り付けてください。
5.アース電線を圧着端子でアース端子に接続してください。
6.カバーをセンターフィードインジョイナに取り付けてください。





⚠注 意

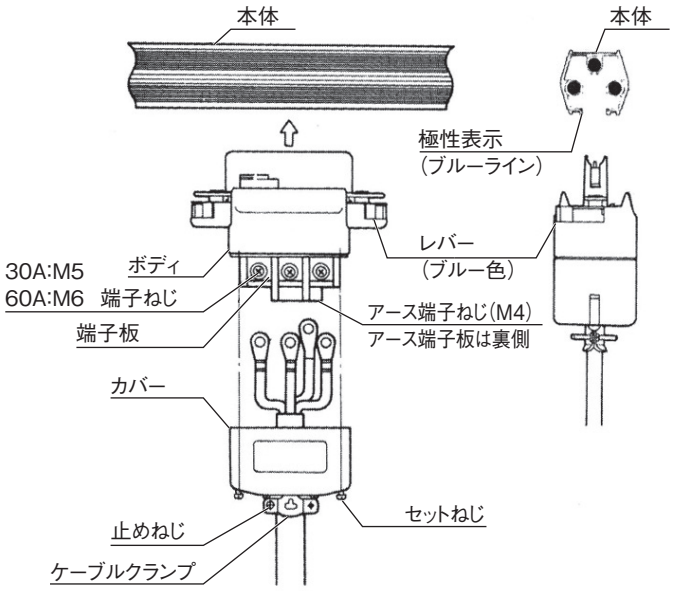
●電線は100 mm²を使用する
●セットねじおよび端子ねじは、確実に締め付ける
火災のおそれがあります。

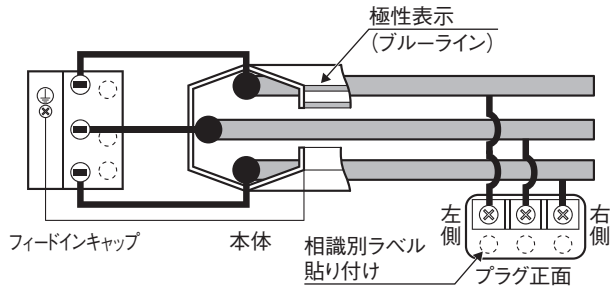


8 ターミナルプラグの取り付け

電線の接続

1.セットねじを抜き、カバーを外してください。
2.ケーブルクランプの止めねじをゆるめ、電線をカバーに挿入してください。
3.電線を圧着端子または巻き締めによって端子板を接続してください。結線後、相識別ラベルを端子ねじ近くに貼り付けてください。
4.カバーをボディに挿入して、セットねじで固定してください。
5.ケーブルクランプの止めねじを締め付けて、電線を固定してください。





⚠注 意

●電線は負荷の容量に合わせて、60 Aプラグの場合5.5 mm² ～14 mm²、30 A以下のプラグの場合3.5 mm²～5.5 mm² を使用する
●1芯を圧着端子でアース端子板に接続する
●端子ねじは、確実に締め付ける
火災のおそれがあります。

プラグの取り付け

● プラグ両側のレバー(ブルー色)を、本体の極性表示(ブルーライン)に合わせて差し込み、外側に 90°(パチッと音がするまで)回転させてください。

⚠注 意

●プラグの逆向き取り付けはしない
火災のおそれがあります。

プラグの取り外し

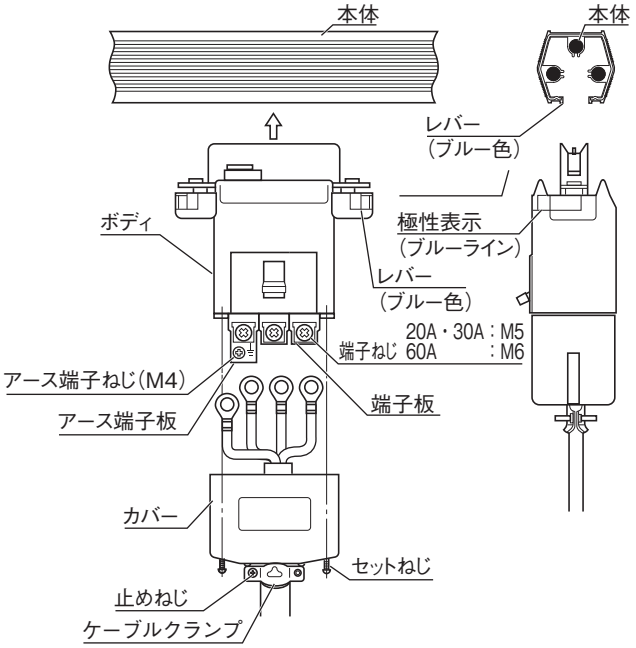
● プラグ両側のレバーを内側に90°(パチッと音がするまで) 回転させて、プラグを引き抜いてください。

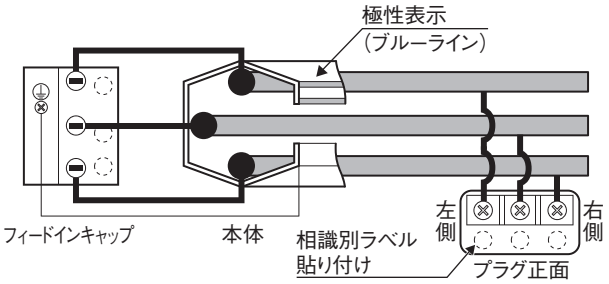
9 ブレーカ付ターミナルプラグの取り付け

電線の接続

1.セットねじを抜き、カバーを外してください。
2.ケーブルクランプの止めねじをゆるめ、電線をカバーに挿入してください。
3.電線を圧着端子(適合圧着端子:20 A·30 Aの場合5.5−5、60 Aの場合14−6)、またはより線の場合は、振り分けて差し込んで端子板に接続してください。
結線後、相識別ラベルを端子ねじ近くに貼り付けてください。

4.カバーをボディに挿入して、セットねじで固定してください。
5.ケーブルクランプの止めねじを締め付けて、電線を固定してください。





ご注意

- **電線は負荷の容量に合わせて、20 A・30 Aの場合は5.5 mm²、60 Aの場合は14 mm²を使用する**
- **プラグには激しい衝撃や振動を与えないでください。**

⚠注 意

- **1芯を圧着端子でアース端子板に接続する**
- **端子ねじは、確実に締め付ける(〔20 A·30 Aの場合〕締付けトルク2.5 N·m〜 3.5 N·m、〔60 Aの場合〕締付けトルク4.0 N·m〜 5.0 N·m)**

火災のおそれがあります。

プラグの取り付け

● プラグ両側のレバー(ブルー色)を、本体の極性表示(ブルーライン)に合わせて差し込み、外側に 90°(パチッと音がするまで)回転させてください。

⚠注 意

- **プラグの逆向き取り付けはしない**

火災のおそれがあります。

プラグの取り外し

● プラグ両側のレバーを内側に 90°(パチッと音がするまで)回転させて、プラグを引き抜いてください。

10 ダクトカバーの取り付け

● 本体の開口部に押し込み固定してください。